

自分で **言語能力** を伸ばす

言語活動ハンドブック

中学校用



監修 大分大学教育学部教授 堀泰樹
編集・発行 大分県教育委員会

はじめに ～全ての教科等で言語活動の充実を～

《中学生の皆さんへ》

私たちは、友達と会話やメディア（本、雑誌、新聞、ラジオ、テレビ、インターネットなど）を通じて、様々な情報を手に入れるとともに、情報を整理し、発信することで、生活を豊かにすることができます。

情報を適切に利用するためには、言葉を自在に使用する力である言語能力が必要になります。言語能力には、文章を読んだり書いたりするだけでなく、図やグラフから読み取れる重要な事柄を見付けて、ひとまとまりの文章にするなどの力も含まれます。このように考えると、言語能力は国語科だけでなく、全ての学習の基盤となるものと言えます。

このハンドブックを全ての教科等の学習、時には委員会活動や部活動でも活用し、一步ずつ自分の言語能力を育んでいくことを願っています。

《学校の先生方へ》

平成29年に告示された学習指導要領においても、言語活動の充実が求められています。それは、言語が「知的活動（創造的・論理的思考）」「コミュニケーション」「感性・情緒」の基盤となるものであり、資料から必要な情報を得たり、話し合いの中で話し手の思いと自分の思いを比較しながら新たな考えを導き出したりするといった言語活動を通して、言語能力を育成することが、学びの質の向上や、思考力・判断力・表現力等の育成につながるからです。

中学校学習指導要領解説総則編では「言語能力を支える語彙の獲得も含め、発達の段階に応じた言語能力の育成が図られるよう、国語科を要としつつ教育課程全体を見渡した組織的・計画的な取組が求められる」と述べられています。言葉そのものを学習の対象とする国語科が言語能力育成の要となっていくことは言うまでもありませんが、言語が「知的活動」「コミュニケーション」「感性・情緒」の基盤となることから考えれば、全ての教科等においてそれぞれの特質に応じた言語活動の充実を図ることも必要です。

このハンドブックは、言語能力を育成する要となる国語科の学習過程を基にそれぞれの局面で行われる言語活動を支える考え方やツールを掲載しています。このハンドブックを様々な教科等の学習や特別活動でも活用し、子どもたちの言語能力を育んで行くことを願っています。

大分県教育庁義務教育課長

目次

はじめに	1
このハンドブックの使い方	4
1 課題を設定しよう	
○現在の状況を様々に比較して課題を設定する	6
① 課題を発見するために、イメージを広げる	
② 様々な方法で問題を整理して、課題を設定する	
○課題を設定する方法（例）	7
2 情報を収集しよう	
○課題解決につながる必要十分な情報の収集を行う	8
① 考えを深めるために必要な情報を収集する	
② 複数の方法で十分な情報を集める	
○情報を収集する方法（例）	9
3 情報の内容を検討しよう	
○選んだテキストを読み、要旨を捉える	10
① 身の回りにあるさまざまなテキストを読む	
② 筆者が述べようとする考えの中心になるものを捉える	
○連続型テキスト、非連続型テキストの読み方（例）	11
4 集めた情報を整理・分析しよう	
○必要な思考のため、技法を用いて情報の整理・分析を行う	12
① 情報を、整理したり分析したりして、思考する活動へと高める	
② 思考・判断のために情報の関係付けを分かりやすくする	
○情報の整理・分析の方法（例）	13

5 テキストの構成を検討しよう

- テキストの構成を理解する/筋道立てて考える……………14
 - ① 読むことや書くこと等に生かすためテキストの構成の順序を理解する
 - ② 集めた情報を生かすため、筋道立てる
- 順序立て、筋道立ての活用（例）……………15

6 自分の思いを発信しよう①

- 論理的に表現する/効果的に資料を活用する……………16
 - ① 段落と段落（文と文）とのつながりを明確にしよう
 - ② 効果的な資料の活用
- 論理的に表現する方法（例）……………17

7 自分の思いを発信しよう②

- より効果的な表現を考える/推敲する……………18
 - ① 表現の工夫を考えるために、伝える相手や目的をはっきりさせる
 - ② 書いた原稿などを推敲する
- 効果的な表現を考える推敲の視点（例）……………19

8 考えを共有しよう

- 考えを共有するために話し合う……………20
 - ① 話し手の意図を捉えるためにすべきこと
 - ② 思いを共有する話し合いにするための留意点
- 話し合うときに使えるフレーズ（例）……………21

言語活動を充実させるための参考資料

- ① 考えるための技法の例……………22
- ② 思考ツール……………22
- ③ 思考のためにさまざまな方法を使う……………23

このハンドブックの使い方

すべての教科等でこのハンドブックを利用しましょう



大分大学教育学部
堀 泰樹 先生

中学生のみなさんが自分の言語能力を伸ばしていくためには、授業で行う言語活動やその際に利用すべき考えるための技法を知っておくことが大切になります。このハンドブックは、そのような方法や考え方について、授業で行われる学習の流れにあわせて掲載しています。様々な授業で、ハンドブックに載っていることを参考にして、学習に取り組んでください。

学習の流れ

ハンドブックの関連ページ

課題の設定、情報の収集・検討

- 日常生活の中から話題（題材）を決める
- 集めた材料から必要な事柄を選ぶ
- 材料を整理し、伝えたいことを明確にする

1 課題を設定しよう (6ページ)

2 情報を収集しよう (8ページ)

3 情報の内容を検討しよう (10ページ)

4 集めた情報を整理・分析しよう (12ページ)

文章の構成の検討

- 考えが明確になるように文章の構成を考える
- 文章の構造、内容をとらえる

5 テキストの構成を検討しよう (14ページ)

自分の思いの発信

- 適切に伝えるために表現の工夫、資料の活用をする

6 自分の思いを発信しよう① (16ページ)

7 自分の思いを発信しよう② (18ページ)

考えの共有

- 互いの考えなどを関わらせながら、考えをまとめたり広げたりする

8 考えを共有しよう (20ページ)

ページの構成を知り、必要な情報をさがしましょう

各ページは、下のようになっています。必要な情報を効率よく利用するようにしてください。



このページの見出し
それぞれの学習の段階で必要となる言語活動や高めてもらいたい言語能力を示しています。

具体的な学習
言語能力を付けるための言語活動を示しています。

1 課題を設定しよう

現在の状況を様々な比較して課題を設定する

- ① 課題を発見するために、イメージを広げる
- 中心テーマを設定する（地域の特色、きっかけとなる体験から）
 - 思考ツールを使う（図・表・言葉を用いて視覚化）

Check! キーワードから言葉を集める→発想を広げ、深める

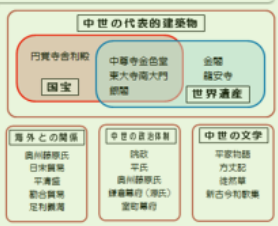
- ・例えば、小学校で学んだ思考ツール例えば、ウェビング（イメージマップ）等を用い、連想する言葉を次々にメモしてつなぎ、発想を広げる。
- ・個人で行うだけでなく、グループで行うことで、発想に広がりや深まりが生まれるようにする。



- ② 様々な方法で問題を整理して、課題を設定する
- 絞り込むための観点をもつ（類型、実現の可能性などから）
 - 課題の候補を取り出す（体験等から抱いた問題意識などから）

Check! いくつかの観点から、整理を整理する

- ・例えば、ウェビング等で用いたカードを、ベン図や二次表等で、いくつかのグループにまとめる。
- ・それぞれにタイトルを付けて整理する。
- ・さらに、項目をまとめることによって、テーマについての観点が明確になる。



- 6 -

要チェック
それぞれの言語活動で、大切にしたいポイントを示しています。

課題を設定する方法（例）

例1 比較することで生まれる問題意識を課題に高める
「A中学校区とB中学校区を探索する」など、比べて考える体験活動から、「（どこが、どのように、どうして）違うのか」などの気付きや問題意識を課題にする。

例2 対象へのあこがれなどから課題を設定する
生き生きと働いている職業人や本などで出会う先人の生き方に触れ、自分なりに価値付けることで課題意識を高める。

例3 課題の案を序列化することで課題を設定する
課題の案を序列化して整理することで、問題が焦点化され、探究したい課題を明らかにする。

- ① 課題の候補をカードなどに書き出す。
- ② 序列化するための視点（チェックポイント）を複数決める。
- ③ 視点にしたがって、それぞれで順位付け（得点付け）を行う。
- ④ ①～③を参考にして、課題の候補を序列化する。その際、必ず理由も考える。

(例) 中世の日本人の生活を考え、現代と比べよう。

	1 代表的な建築	2 海外との関係	3 政治体制	4 中世の文学
②	自分の興味・関心			
③	調査可能な			
③	それを調査することで問題が解決できるか			
③	1 代表的な建築	4・3・2・1点	4・3・2・1点	4・3・2・1点
③	2 海外との関係	4・3・2・1点	4・3・2・1点	4・3・2・1点
③	3 政治体制	4・3・2・1点	4・3・2・1点	4・3・2・1点
③	4 中世の文学	4・3・2・1点	4・3・2・1点	4・3・2・1点
④	順位			
④	1 代表的な建築	位	理由	
④	2 海外との関係	位		
④	3 政治体制	位		
④	4 中世の文学	位		

- 7 -

授業場面での具体的事例
右のページでは、実際の授業場面でのどのようなことが行われるか、例を挙げて説明しています。

1 課題を設定しよう

現在の状況を様々に比較して課題を設定する

① 課題を発見するために、イメージを広げる

- 中心テーマを設定する（地域の特徴、きっかけとなる体験から）
- 思考ツールを使う（図・表・言葉を用いて視覚化）

キーワードから言葉を集める＝発想を広げ、深める

- 例えば、小学校で学んだ思考ツール、ウェビング（イメージマップ）等を用い、連想する言葉を次々にメモしてつなぎ、発想を広げる。
- 個人で行うだけでなく、グループでも行くと、発想の広がりや深まりが期待できる。

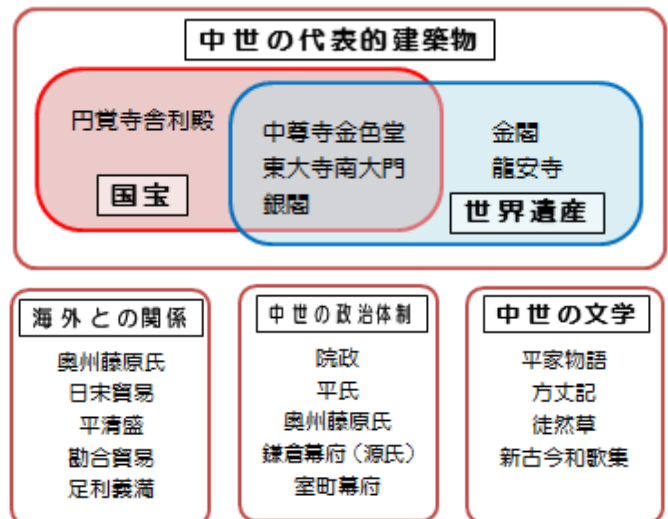


② 様々な方法で問題を整理して、課題を設定する

- 絞り込むための観点をもつ（類型、実現の可能性などから）
- 課題の候補を取り出す（体験等から抱いた問題意識などから）

いくつかの観点から、発想を整理する

- ウェビング等で用いたカードを、ベン図や二次元表等で、いくつかのグループにまとめる。
- それぞれにタイトルを付けて整理する。
- さらに、項目をまとめることによって、テーマについての観点が明確にすることができる。



課題を設定する方法（例）

例1 比較することで生まれる問題意識を課題に高める

「A中学校区とB中学校区を探索する」など、比べて考える体験活動から、「（どこが、どのように、どうして）違うのか」などの気づきや問題意識を課題にする。

例2 対象へのあこがれなどから課題を設定する

生き生きと働いている職業人や本などで出会う先人の生き方に触れ、自分なりに価値付けることで課題意識を高める。

例3 課題の案を序列化することで課題を設定する

課題の案を序列化して整理することで、問題が焦点化され、探究したい課題を明らかにする。

- ① 課題の候補をカードなどに書き出す。
- ② 序列化するための視点（チェックポイント）を複数決める。
- ③ 視点にしたがって、それぞれで順位付け（得点付け）を行う。
- ④ ①～③を参考にして、課題の候補を序列化する。
その際、必ず理由も考える。



（例）中世の日本人の生活を考え、現代と比べよう。

- ①
- | | | | |
|----------|----------|--------|---------|
| 1 代表的な建築 | 2 海外との関係 | 3 政治体制 | 4 中世の文学 |
|----------|----------|--------|---------|

②

	自分の興味・関心	調査可能か	それを調査することで問題が解決できるか
③ 1 代表的な建築	4・3・2・1点	4・3・2・1点	4・3・2・1点
2 海外との関係	4・3・2・1点	4・3・2・1点	4・3・2・1点
3 政治体制	4・3・2・1点	4・3・2・1点	4・3・2・1点
4 中世の文学	4・3・2・1点	4・3・2・1点	4・3・2・1点

④

	順位	理由
1 代表的な建築	位	
2 海外との関係	位	
3 政治体制	位	
4 中世の文学	位	

2 情報を収集しよう

課題解決につながる必要十分な情報の収集を行う

① 考えを深めるために必要な情報を収集する

- 目的を明確にして、収集する
- 調べて得た情報だけでなく、体験を通じた感覚的な情報も大切にする
- 付箋ふせんなどを用いて、文字化（＝見える化）する

探究活動のために必要な情報収集の方針を決める

- 課題解決に必要な情報を収集するために「何を」「どのように」「どれくらい」調べるのか、見通しを立てる。

① 知りたい事柄の概要を知る
（例）国語辞典、百科事典、
理科年鑑等で調べる



② ①を手掛かりにさらに深く知る
（例）専門書、実験や観察など
でより詳細な情報を得る

- 情報収集をしたのち、情報収集の方針を立て直すことも必要。

② 複数の方法で十分な情報を集める

- 各教科等で身に付けた情報収集のための方法を活用する
- 体験的に得る情報収集（実験・観察、インタビュー、アンケートなど）も積極的に行う
- 学校図書館等の施設を利用する（辞書、事典、本、雑誌、新聞など）
- マスメディアを利用する（テレビ、ラジオ、インターネットなど）

より確かな情報を収集することを心掛ける

- より確かな情報を得るために、複数の方法で情報を収集する。
- メディアから情報を得るときには、それぞれの特徴を知っておくことが大切である。
- 著作権などにも配慮し、引用のルールなども知ることが大切である。



情報を収集する方法（例）

例1 学校図書館等で情報を収集する

図書館での情報収集は有効な方法である。多くの蔵書の中から目的に合った本を検索する方法を身に付け、必要な情報をできるだけ早く、正確に得ることが求められる。

県立図書館等では、電子図書の貸出も行われている。



【図書分類法（日本十進分類法＝NDC）による検索】

ラグビーについて調べたい

000	総記
100	哲学
200	歴史
300	社会学
400	自然科学
500	技術・工学
600	産業
700	芸術・美術
800	言語
900	文学



700	芸術・美術
710	彫刻
720	絵画・書道
730	版画
740	写真・印刷
750	工芸
760	音楽・舞踊
770	演劇・映画
780	スポーツ・体育
790	諸芸・娯楽



780	スポーツ・体育
781	体操・遊戯
782	陸上競技
783	球技
784	冬季競技
785	水上競技
786	戸外レクリエーション
787	釣魚・遊猟
788	相撲・拳闘・競馬
789	武術

【コンピュータ検索】

図書館にあるコンピュータに書籍の情報（題名、著作者名、出版社名等）を入力し検索する。

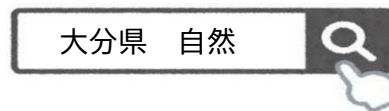
例2 検索エンジンで「キーワード検索」をする

さまざまな疑問に対して瞬時に情報を検索できるインターネットは便利なツールである。目的に応じた情報を適切に取り出すために、検索の方法を身に付けよう。基本的な検索の方法は以下のとおり。



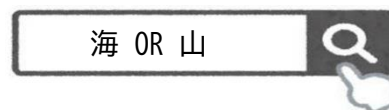
①AND 検索

言葉と言葉との間にスペースを空けて入力することにより、入力した複数の単語を含むページを検索する。（例）



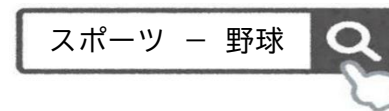
②OR 検索

入力したいいくつかの単語のうちのどれかがページに含まれていれば、検索結果として表される。（例）



③NOT 検索

検索する言葉の前に『 - 』を付けて入力すると、『 - 』が付けられた単語をふくまないページが検索結果として表される。（例）



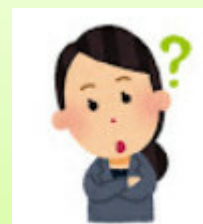
③ 情報の内容を検討しよう

選んだテキストを読み、要旨を捉える

① 身の回りにあるさまざまなテキストを読む

活字を読むためには、以下の点などに注意して読むことが大切

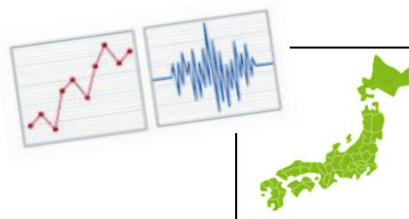
- ・ 題名や見出しで表している内容
- ・ 図表と関連して述べられている文章の内容や図表の効果
- ・ くり返し書かれていること
- ・ 2つ（以上）のことを比較して述べている部分
- ・ 具体例として挙げられていること



テキストの種類に合わせ、読むポイントを決める



図表・写真と文章を組み合わせたテキスト
(新聞、雑誌、論文)
【混成型テキスト】



文章（物語、説明、詩歌、記録、報告、論説、報道など）
【連続型テキスト】



絵画、写真、図・表、地図、年表、グラフ、イラスト、楽譜など
【非連続型テキスト】

② 筆者が述べようとする考えの中心になるものを捉える

- ・ 事実と意見・主張（筆者の考え）を区別する
- ・ 次の点でテキストを捉え直す
 - ① 話題・・・その文章の中心となる内容や問題提起されているものは何か
 - ② 根拠・・・主張を支える事実はどのようなものか
 - ③ 主張・・・要旨（筆者の主張）はどのようなものか



事実と意見の区別は文末表現で判断する

- ・ 事実と意見を区別して読むと、要旨が捉えやすくなる。
- ・ 「～と考えます。」「～が大切です。」「～であろう。」などの文末表現は、意見や考えを表す。

連続型テキスト、非連続型テキストの読み方（例）

連続型テキストを読む（例：事実と意見を区別する）

次の文章について、筆者の意見に当たる文を抜き出してみよう

食べ物はいろいろな食品でできています。その食品には、体に必要な栄養素が含まれていますが、1つの食品だけで必要な量をとることはできません。このため、いろいろな食品を組み合わせる食べることが大切です。

栄養素には、炭水化物、脂質、たんぱく質、無機質、ビタミンがあり、これらを「五大栄養素」といいます。

「たのしい食事つなげる食育（文部科学省 平成28年2月）」より引用

文末表現に着目して、意見に当たる部分をさがす

筆者の意見にあたる部分

「このため、いろいろな食品を組み合わせる食べることが大切

非連続型テキストを読む

下のイチゴ狩りの絵を比較して、それぞれどのような情報を述べるのに効果があるのかを考えてみよう



（例）3人の行動や表情から、家族で楽しめることを伝える効果がある。



（例）奥行きを見せ、敷地が広く、大人数でも楽しめることを伝える効果がある。



（例）子どもだけでも楽しめる場所であることを伝える効果がある。



では、左の絵はどのようなことを述べるのに効果があるか、考えてみよう

4 集めた情報を整理・分析しよう

必要な思考のため、技法を用いて情報の整理・分析を行う

① 情報を、整理したり分析したりして、思考する活動へと高める

以下の点などに注意して、情報を整理・分析しよう

- どのような情報が、どの程度収集されているかを捉えること
- どのような方法で情報の整理・分析を行うのかを決定すること
- 整理・分析するときには、「比較」「分類」「序列」「関連付け」などの「考えるための技法」を活用すること（→22 ページ）

情報はさまざまな目的により整理することができる

- 目的に応じて分類する視点を決める。
- 集めた情報を観点に応じて分類する。
- 目的に応じて情報を取捨選択する。
- 足りない情報についても検討する。



情報はさまざまな視点から整理することができる

- 共通点や相違点、程度、変化の様子等から情報を「比較する」。
- 集めた情報を「分類してみる」「見出しを付けてみる」。
- ※同じ意味 同じ種類 同じ目的 などで関係付ける。
- 集めた情報を「順番を付けて並べてみる」「比べてみる」。
- 情報と情報との「つながりを見付ける」。

因果関係：Aが原因でBという結果となる。

(例) A 気温の上昇 → B エアコンの販売台数が増える

相関関係：AとBが密接に関わり合っている

(例) A 読書量が多い ↔ B 文章を読む力が高い

包含関係：BはAに含まれる

(例) A 球技 B ラグビー

※その他、根拠・理由—結論、対になるもの などの関係もある

② 思考・判断のために情報の関係付けを分かりやすくする

- ・情報の関係を書き出して、「見える化」(可視化)して考える

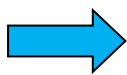
情報の関係を「見える化」(可視化)する

- ・集めた情報を□や○で囲んだり、→や↔でつないだりすると、情報と情報との関係が「見える化」する。そうすることで、思考が整理されたり、新しい発想が生まれたりする。



・・・

・同じ意味、同じ種類、まとまりなどを表す。



・・・

・順番、時間の順序、物事の展開、関係、理由や根拠、要因と結果などを表す。



・・・

・観点の違い、細分化などを表す

情報の整理・分析の方法(例)

○付箋(カード)で整理や分析をする

集めた情報を付箋(カード)に書き出し、観点ごとに分類していくことで、いろいろな情報を焦点化して整理できる。情報と情報とを関連付けて捉えたり、質の高い情報とそうでない情報とを振り分けたり、同じ情報を合わせたりすることができるよさがある。

【方法】

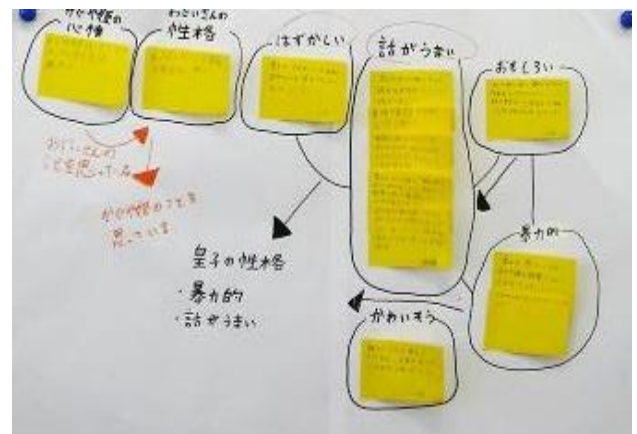
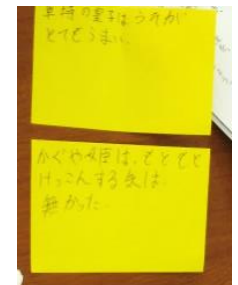
- ①分かったことや気づきなどの情報を付箋に書き出す。

※1枚に1つの情報を書く。

- ②自分の考えを話しながら、付箋を台紙に貼る。貼る際には、同じ考えの付箋は同じ所に貼る。

- ③まとまりごとにタイトルやキーワードを書く。

- ④まとまりから、解決の方向性や新たな課題を発見する。



5 テキストの構成を検討しよう

テキストの構成を理解する/筋道立てて考える

① 読むことや書くこと等に生かすためテキストの構成を理解する

- テキストの構成には、次のようなものがある
 - ① 行動や経験したこと、物事が起こった順序
 - ② 物を作ったり、作業したりした順序
 - ③ 説明や紹介をしたり、意見の理由を述べたりする順序

順序を表す言葉（ナンバリング）を使う

• 順序を表す言葉

まず（はじめに） 次に それから（そして） さらに 最後に（おわりに）
一つ目は（第一に） 二つ目は（第二に） 三つ目は（第三に）…

※経験したことなどを記す場合

→ 時間にそって並べる方が分かりやすい。

※物事を説明したり、意見の理由を述べたりする場合

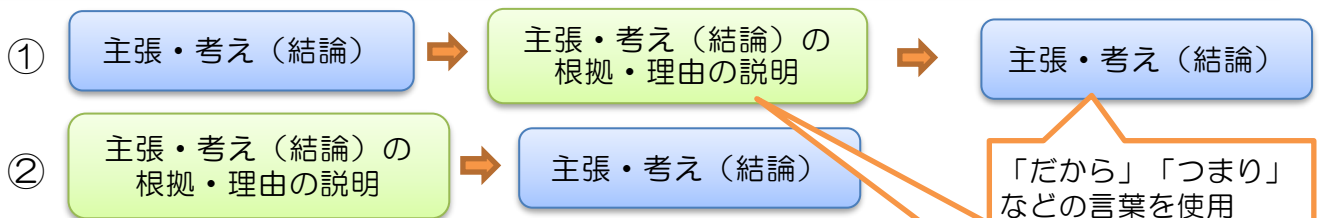
→ 事柄にそって並べる方が分かりやすい。



② 集めた情報を生かすため、筋道立てる

- 情報を整理・分析し、考えの根拠や理由を示していく。
- 集めた情報から、どのようなことが言えるか、どのようなきまりがあるか考える。

主張・考え（結論）と根拠・理由の関係を捉える



説明文の型は、大きく3つに分類される

- ① 頭括型… 結論・主張 ⇒ 具体例や理由・説明
- ② 尾括型… 具体例や理由・説明 ⇒ 結論・主張
- ③ 双括型… 結論・主張 ⇒ 具体例や理由, 説明 ⇒ 結論・主張

順序立て、筋道立ての活用（例）

例1 効果的に相手に伝えるための表現の仕方について捉えることができるようにする（論説）

- スピーチの学習をする際、「内容に注意して聞き取る」役割と「話の組立てに注意して聞き取る」役割の聞き手に分かれ、それぞれメモをとりながら聞く。

学校図書館の利用者を増やすには、全校生徒が本を読みたくなる工夫をする必要があります。そのため、私が考えたアイデアを二つ話します。

一つめは、「学校図書館に入れてほしい本のアンケートをとる」とです。

二つめは、「図書便りでおすすめの本を紹介すること」です。

そうすれば学校図書館に興味をもってくれる人が少しずつ増えると思います。

「内容に注意して聞き取る」役割

<メモ>（例）

- 二つのアイデア
 - ① アンケートをとる
 - ② おすすめの本を紹介する
- 興味をもつ人が増える

「話の組立てに注意して聞き取る」役割

<メモ>（例）

- 最初に、何について話すのかを明確に示している。
- 「一つめ」、「二つめ」のように項目立てて話している。

参考資料：全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例（平成22年度）

例2 順序立てと筋道立てを併用して、考えを説明する（数学の説明）

【問題】連続する5つの整数の和がどんな数になるか、
「～は、・・・である。」という形で説明しなさい。

平成27年度「全国学力・学習状況調査問題」から

方針

まず、連続する5つの整数を、文字 n を使って表すと $n, n+1, n+2, n+3, n+4$ と表すことができます。

式

次に、これらの数の和は、 $n + (n+1) + (n+2) + (n+3) + (n+4)$ になります。

計算

そこで、この式をまとめると、 $5n + 10 = 5(n+2)$ です。（ $n+2$ は中央の整数なので）

答え

だから、連続する5つの整数の和は中央の整数の5倍です。

⑥ 自分の思いを発信しよう①

論理的に表現する／効果的に資料を活用する

① 段落と段落（文と文）とのつながりを明確にしよう

- ・段落と段落、文と文とをつなぐ役割を果たしているのが、接続詞
- ・接続詞は、前後の段落文の内容のつながりをはっきりさせる

接続詞の使用で、段落と段落の関係がより明確になる

- 1. 順接**：原因や理由を表す内容が前にあり、その当然の結果が後にくる
だから／したがって／よって／ゆえに／それで／そのため／すると
例：彼は一所懸命に練習した。だから、大会で優勝した。
- 2. 逆接**：前の内容と対立する事柄が後にくる
しかし／だが／けれど／でも／それでも／ところが／それなのに
例：彼は一所懸命に勉強した。しかし、目標には届かなかった。
- 3. 並列・添加**：2つ以上の事柄を並べたり、重ねて付け加えたりする。
しかも／そのうえ／それに／そして／それから／また／および／かつ
例：この料理はおいしい。しかも、見た目も良い。
- 4. 対比・選択**：前後の内容が対比関係または選択関係にある。
一方／他方／逆に／反面／むしろ／あるいは／それとも／または
例：今の部活を続けるか。あるいは、思い切って転部するか。
- 5. 説明・補足**：理由や説明などを補う
なぜなら／つまり／すなわち／たとえば／ただし
例：遠足が延期になった。なぜなら、雨が降ったからだ。
- 6. 転換**：話題を変える
さて／ところで／では／ときに／そもそも／それでは
例：以上、本日のニュースでした。さて、明日の天気はどうでしょうか？

- ※ 1 上記以外にも、前後の段落や文をつなぐ働きをする言葉がある。
- 2 接続詞は、前後のつながりを明確にするが、濫用すると分かりにくくなることもあるので、注意する。

② 効果的な資料の活用

- ・引用…本などからそのままの形で抜き出して使う
- ・図解や提示…図表やグラフ、写真などを使用する

資料を活用することの長所を確認する

- ・説得力が増す
形や数など具体的に示すことで、伝えるべきことが伝わりやすくなる
考えの根拠がはっきりするため、読み手が納得しやすい
※引用するときには以下の点に気を付ける。
 - ① 筆者名を明らかにする
 - ② 出典（出版社・発行年・題名・URLなど）を明らかにする
 - ③ 引用した部分には「」を付ける

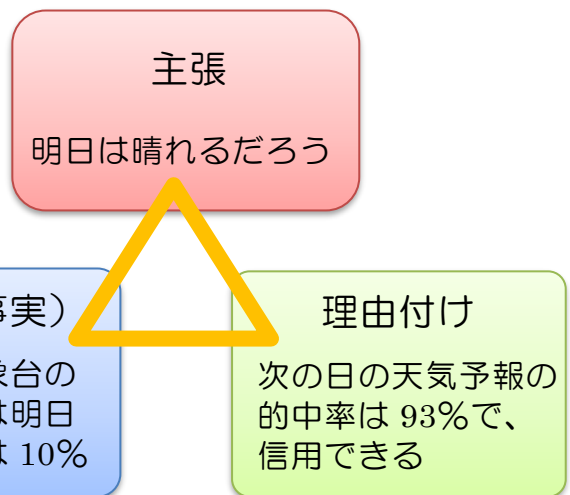
論理的に表現する方法の例

例 三角ロジックで論理的思考力を鍛える

主張とデータ（事実）と理由付けの3つを区別し、この3点を意識して考える方法を「三角ロジック」と言う。

この論法には、客観的なデータと、主張とデータを結び付ける理由付けが必要になる。

主張に対する「なぜ」の答えが下の「データ」と「理由付け」になる。



演繹法

一般的な前提から個別の事実推論し、結論を出す方法

（例）・降水確率10%の予報では、ほとんど雨は降らない

↓
予報では明日の降水確率は10%

↓
「ゆえに明日は晴れるだろう」

帰納法

複数の事実や事項から共通点を見つけ出し、結論を出す方法

（例）・一昨日は降水確率が10%で、晴れた
・昨日も10%で晴れた

↓
「明日は降水確率が10%であるので晴れるだろう」

7 自分の思いを発信しよう②

より効果的な表現を考える／推敲する

① 表現の工夫を考えるために、伝える相手や目的をはっきりさせる

- ・ 伝える相手はだれであるのか（年齢、人数、興味関心、経験）
- ・ 目的は何か（何のために伝えなければならないのか）
- ・ 伝える内容は何か（日常生活に関わる内容、専門的な内容）
- ・ 伝える手段や場の環境はどうか（書き言葉と話し言葉の差違、機器の活用、広さなど）

相手意識や目的意識などから伝える工夫を考える

例えば、複数の人を前にして話すときの工夫として次の点がある。

1 使用する言葉の工夫

- ① 問いかける「みなさんは～ですか。」
- ② 具体例を示す「～には、例えば、〇〇があります。」

2 資料の提示

- ① 実際に見せる……画像やフリップ 動きや演技
- ② 実際に聞かせる……音楽など

3 その場に合わせる

- ① 相手の反応を確かめる
- ② 表情や身振りなどの工夫



② 書いた原稿などを推敲する

- ・ 「推敲」とは、一度書いた文章をよりよくするために、修正したり、形式や表現を整えたりすること
- ・ 自分で書いた文章を何度も読み直して、よりよいものにしていく作業であるが、友達同士で書いたものを交流して助言し合うと、自分で読んだだけでは気付かなかった点を修正することもできる
- ・ 相手や目的等について確認し、それらに沿ったものになっているかを考えることが大切

推敲の観点は、「相手にとって分かりやすいか」

- 相手や目的に合った文章か。
- 構成等が分かりやすく、読み手や聞き手にとって分かりやすい表現になっているか。
- 事実と感想・意見とを明確に分けて述べているか。
- 文のねじれ（主語と述語のつながりが悪いところ）や誤字等がないか。
- 文体は常体（だ、である）と敬体（です、ます）のどちらかに統一されているか。

効果的な表現を考える推敲の視点（例）

総合的な学習の時間にお世話になった方へのお礼状を推敲する

○○○様 平成三十一年七月十日 大分花子	では、暑さ厳しきみぎり、くれぐれも ご自愛ください。 敬具	後もっと調べたいと思っています。 い、宇宙と人類の未来が身近に感じられ るようになりました。その点について今 おおいに「作られるということ」をうかが 特に、大分に「アバターエックスラボ なりました。	術については詳しく教えてください、本 にありがとうございます。アバター技 術による地域の課題解決や産業振興に挑 戦する皆様に出会い、将来、大分県でそ のような仕事に携わりたいと思うよう になりました。	皆様、益々ご活躍のことと存じます。 皆様、毎日、暑い日が続いていますが、 拝啓
----------------------------	-------------------------------------	--	---	---

後付け

結びの
挨拶

本文

はじめの
挨拶

手紙の推敲のポイントとして

- 適切な手紙の型式になっているか（はじめの挨拶→本文→結びの挨拶→後付け）
 - 言葉づかいは正しいか（敬語の使用）
 - お礼の気持ちがこもっているか（してもらったことへの感謝が具体的であるか）
 - 字は丁寧か
- などが考えられる。

8 考えを共有しよう

考えを共有するために話し合う

① 話し手の意図を捉えるためにすべきこと

- ア 話題、目的は何か、相手の立場はどこにあるか等を自分なりに捉えながら聞く
- イ 自分の立場（賛成と反対、肯定と否定、これまでの経験）と比較しながら聞く
- ウ 話し手の考えの根拠（事実やデータ）になっていることは何か、出典は何かを考えながら聞く
- エ 疑問に思ったことはメモをする

文（段落）の最初にある接続詞や文末表現に着目する

話し手の意見は、つなぎ言葉や文末表現に着目すると分かりやすい。また、話し手も、それらの言葉を意図して使用するように留意する。

立場を捉える（伝える）

「～に賛成（反対）です」

考えの根拠を捉える

「なぜなら」「だからです」

主張・結論を明らかにする

「つまり」「要するに」

② 思いを共有する話し合いにするための留意点

- ・話し合いの目的や話題に沿って話し合う
- ・考えの共通点や相違点を整理しながら進める
- ・提案者の役割と司会者の役割を明確にして、進行する



司会者と提案者と参加者の役割について理解する

司会者の役割

参加者が積極的に発言するよう働きかけたり、発言を整理し、まとめたりする。→話し合いの目的、結論までの見通し、話し合いの柱立てを常に意識しておく

提案者の役割

参加者に自分の考えが伝わるように内容を整理したり、話し方を工夫したりする。→提案の具体性、提案の根拠の分かりやすさ、提案の実現性等を意識する。

参加者の役割

話し合いの話題が何であるのか、目的が何であるのか等について理解し、それに沿って発言する。→話し合いのゴールイメージを持って発言をしたり、相手の発言を聞いたりする。

話し合うときに使えるフレーズ（例）

例1 自分の思いを明確にする言葉

自分なりの答えを述べる	<ul style="list-style-type: none"> ・～については…です。 ・～の点から考えると…です。
相手の意見に賛成する	<ul style="list-style-type: none"> ・Aさんが言った「…」という意見に賛成です。なぜなら、～と考えるからです。
相手の意見に反対する または他の意見を推す	<ul style="list-style-type: none"> ・Aさんの「…」という意見に反対です（違う意見を持っています）。なぜなら、～（理由）だからです。
似ている意見を述べる	<ul style="list-style-type: none"> ・Aさんの意見に付け足して、…と思います。 ・Aさんの意見に関連して、～ということも言えると思います。 ・Aさんと「…」という点については同じですが、～という点が違います。
相手に質問する	<ul style="list-style-type: none"> ・Aさんの言った「…」とはどういうことですか。 ・「…」という点は分かりましたが、「～」という点については説明して下さい。
最終的な結論を述べる	<ul style="list-style-type: none"> ・つまり…ということになると考えます。

例2 スムーズな進行のために司会者が使用する言葉

参加者に目的や話題を意識させる発言	<ul style="list-style-type: none"> ・～について話し合います。 ・…という柱立てをし、それにそって話し合いを進めていきます。 ・…について質問（意見）を出していきましょう。 ・Aさんの発言は…とは関連がないので、気を付けてください。
発言を整理したり、まとめたりするときの発言	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの意見を整理すると「…」と「～」という2つの意見に整理できます。
意見が出なくなったときの発言	<ul style="list-style-type: none"> ・意見が出ないようですので、ペア（班）で…という点について～という視点から話し合ってください。2分後に意見を聞きます。
話し合いの終末	<ul style="list-style-type: none"> ・…という意見が多いです。よって…となります。

言語活動を充実させるための参考資料

① 考えるための技法の例

- 「考えるための技法」とは、考える際に必要になる情報の処理方法を「比較する」、「分類する」、「関連付ける」のように具体化し、技法として整理したもの

考えるための技法を各教科等の学習の中で活用する

番号	考えるための技法	意味
1	順序付ける	複数の対象について、ある視点や条件にそって対象を並び替える。
2	比較する	複数の対象について、ある視点から共通点や相違点を明らかにする。
3	分類する	複数の対象について、ある視点から共通点のあるもの同士をまとめる。
4	関連付ける	複数の対象がどのような関係にあるかを見付ける。 ある対象に関係するものを見付けて増やしていく。
5	多面的に見る 多角的に見る	対象のもつ複数の性質に着目したり、対象を異なる複数の角度からとらえたりする。
6	理由付ける（原因や 根拠を見付ける）	対象の理由や原因、根拠を見付けたり予想したりする。
7	見通す（結果を予想 する）	見通しを立てる。物事の結果を予想する。
8	具体化する（個別化 する、分解する）	対象に関して、規則に当てはまる具体例を挙げたり、対象を構成する要素に分けたりする。
9	抽象化する（一般化 する、統合する）	対象に関して法則を挙げたり、複数の対象を一つにまとめたりする。
10	構造化する	考えを構造的に整理する。

（平成 29 年改訂中学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」から作成）

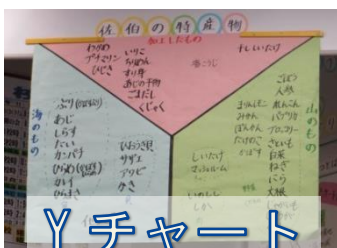
② 思考ツール

- いろいろな方法で考えることを助けてくれるもの

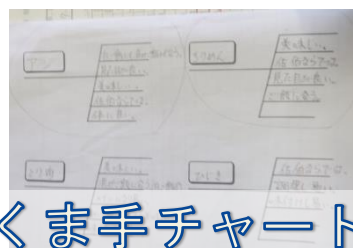
自分の頭の中にある考えを視覚的に表してくれるもの

- ①頭の中のあいまいなイメージを意識させてくれる
- ②文章として表現しにくいイメージを断片的ではあっても書き表すことを助けてくれる
- ③関係がないと思われる事柄の関係を気付かせてくれる。
- ④考える方向を限定して、その手順を示してくれる。

（参考「シンキングツール～考えることを伝えたい～」2012年 黒上晴夫・小島亜華里・泰山裕）



Yチャート



くま手チャート



ピラミッドチャート

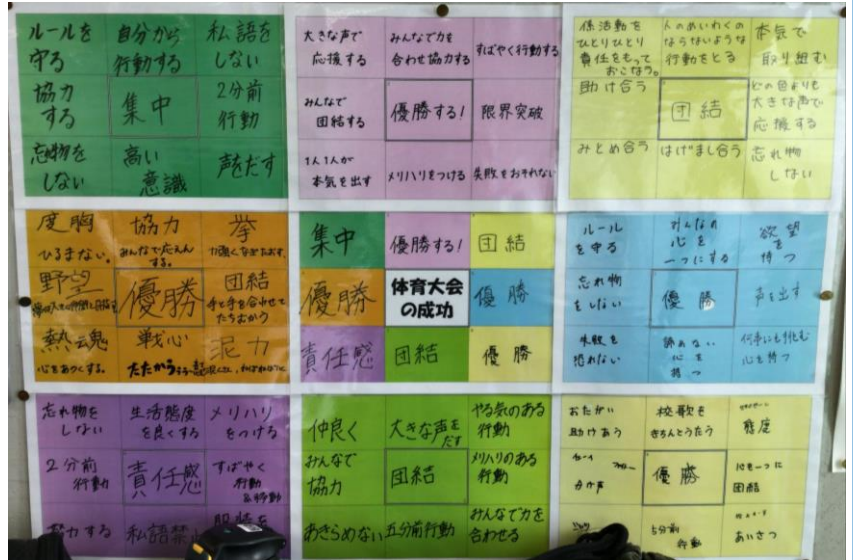
③ 思考のためにさまざまな方法を使う

- ・アイデアを出したり、材料を集めたり、整理したりするときには、それぞれの段階で使用できる思考方法がある

発想を広げるための方法

例1 マンドラートシート

- ・中心にテーマを書き、それを囲む8つのマスに連想される言葉を書く
- ・書いた言葉のそれぞれを囲む8つのマスにさらに連想される言葉を書く
- ・全てのマスを埋めなくてもよい



情報を集めるための方法

例1 インタビューをする

(1) 準備

- ①インタビューの計画
- ②資料の収集
- ③インタビューメモを作成

(2) 依頼

- ①相手に必要な情報を伝える
- ②日程の調整
- ③手紙、電話のマナーに留意

(3) インタビューの実施

- ①取材目的の確認
- ②定める問いと広げる問いを使い分ける

(4) インタビューをまとめる

(5) 取材先への御礼

例2 アンケートをとる

(1) アンケートを作る

- ①アンケートの目的と対象を決定する
- ②アンケートの方法を決定する
- ③質問内容や回答方式を決定する
- ④用紙の作成

(2) アンケートを実施する

(3) アンケートをまとめる

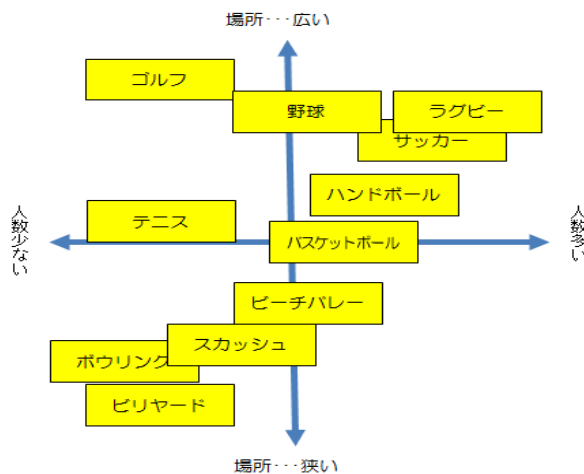
- ①結果を分析し、図表等に見せ方を工夫する
- ②推測できることを文章にまとめる

情報を分類・整理する方法

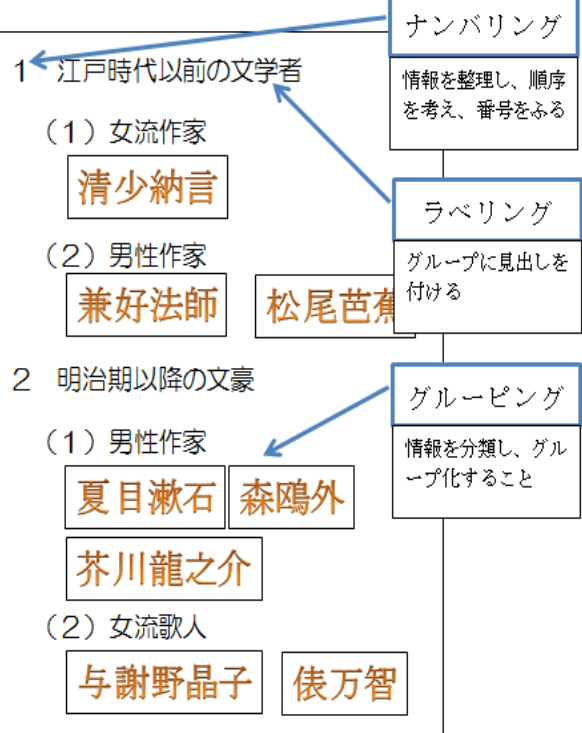
例1 マトリクス（座標軸法）

- 情報を分類・整理する方法
- 同じ情報でも、違った切り口で分けると新しい発見がある

集めた情報
 ビリヤード ゴルフ ボウリング
 ハンドボール バスケットボール ビーチバレー
 サッカー ラグビー 野球
 スカッシュ テニス バドミントン 卓球



例2 グループング等



伝えたい内容を分かりやすく提示するための資料

1 写真、イラスト、図

物の形や構造などを示すとき、文章だけでは説明が複雑になる。写真などで視覚的に示すことで具体的なイメージが伝わる。

2 表

調べて分かった数量等は、表で示すことで一覧でき、必要な情報が見付けやすくなる。

3 グラフ

調査で分かった数量は、グラフを用いて視覚的に示すことで、数量の大小や変化などを分かりやすく伝えられる。

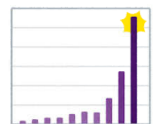
○円グラフ

アンケートの意見など、全体の中での各要素の割合を示す。



○棒グラフ

市町村別の農作物の生産量など、棒の高さによって数量を示す。数量の大小が比較しやすい。



○折れ線グラフ

人口の変化など、時間の推移に応じた数量の変化を示す。

数量の増減が捉えやすい。



考えを共有するための話し合いの方法

話し合いには、様々な方法がある。アイデアを出し合う場合、全員であることについて決定する場合など目的や人数に応じて使い分ける必要がある。



ブレーン ストーミング

たくさんのアイデアを出し合うための方法。5～10名で行う。案をたくさん出すのが目的なので、思いついたことを自由に述べ、互いの案を否定しない。

【議題の例】クラス目標の候補を挙げる

バズ・ セッション

学級全体を、4～6名程度の小グループに分けて話し合うことで、意見を出しやすくする。

【議題の例】職場体験学習の振り返り

パネル ディスカッション

立場の異なるパネリストが討論し、そこにフロア（聴衆）が加わって考えを広げる。

【議題の例】メディアとして最も優れているのは何か

グループ・ ディスカッション

4～6名に分かれて議題について話し合い、結果を全体に報告する。解決策を探ったり考えを深めたりする場合に行う場合もある。

【議題の例】学級の年間目標

シンポジウム

あるテーマについて、複数の専門家が意見を述べ、フロアは質疑応答を通して、テーマに関する考えを広げる。

【議題の例】中学生の運動部の意義
地域の商店街をより活性化するための方法

ポスターセッション

研究結果などについて発表者が、発表内容を図やグラフなどを用いてポスターとしてまとめ、それを使いながら説明と質疑応答をする。

【議題の例】〇〇校区の環境汚染を防ぐための方法

ワールド・カフェ

- ①少人数で話し合いをする。
- ②①の話し合いを踏まえ、他グループと意見交流をする。その際、一人は、その場に残り、他の人は他のグループの場所へ移動する。
- ③②の交流を踏まえ、再び①のグループで交流する。

このハンドブックは

- 「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」 文部科学省
 - 「シンキングツール～考えることを教えたい～」 黒上晴夫・小島亜華里・泰山裕
 - 「言語活動ハンドブック」 山梨県教育委員会
- などを参考に編集しました。

○監修 堀 泰樹 大分大学教育学部教授

自分で言語能力を伸ばす言語活動ハンドブック

平成31年3月発行

大分県教育委員会

所在地 〒870-8503 (大分県教育庁専用)
大分市府内町3丁目10番1号

電話 097-506-5519 (義務教育課)

FAX 097-506-1795 (義務教育課)

E-mail a31810@pref.oita.lg.jp

氏名		
学校名	年 組	
学校・学園	年 組	
学校・学園	年 組	
学校・学園	年 組	